

に気血の巡行力が低下した病態である。虚証＋寒証（虚寒証）の症状がみられる（後述）。

#### 病態と症状

- ①気血不足や腎虚の月経痛：月経後に出現することが多く、鈍痛や空虚な痛み下垂痛など軽い痛みがみられ、触れられることを好む（喜按）。月経量は淡い色となることも多い。月経時や月経後に体調が悪化することも多い。
- ②血虚証：月経周期の遅れ（後期）、過少月経などがみられる。
- ③気虚証：周期が早まり（早期）、過多月経がみられるが、周期は正常なことも多い。また、平素は虚弱体質であり、月経時や月経後に体調の悪化をみることも多い。
- ④腎虚証：小腹部の鈍痛・放散する腰痛がみられる。尺脈無力や腰部下肢倦怠無力などの腎虚症状がみられる。ただし腎虚の月経痛はあまり多くない。

## 実証の月経痛

実証の月経痛は、外感の寒・熱・湿邪の体内侵襲、気滞・瘀血などによって、気血の巡行が低下して出現する。外感では寒邪が多く、ついで湿熱の邪が多い。月経時や月経前の疼痛がみられ、強い痛みで押されることを嫌がる（拒按<sup>↑</sup>）。月経血は粘稠性で血塊を伴うことも多い。

### (1) 気滞瘀血の月経痛

気滞や瘀血、あるいはその合併による月経痛である。瘀血が中心になるものと気滞が中心になるものの2つの病態がある。

**共通症状：**周期が不定期となり、月経は少量の暗紅色で血塊を伴うことも多い。月経痛は、月経前や月経時にみられ、排血で疼痛は軽減することが多い。排血はスムーズさに欠け、押さえられることを嫌がる（拒按）。

図 3-29 月経痛の病態とおもな使用方剤

|      |                              |                                 |               |
|------|------------------------------|---------------------------------|---------------|
| 気滞   | — 四逆散                        | }                               | 血府逐瘀湯*・膈下逐瘀湯* |
| 瘀血   | — 桃核承気湯＋四逆散・通導散              |                                 |               |
| 寒証   | }                            | 陽虚証：温経湯・当帰四逆加呉茱萸生姜湯             |               |
|      |                              | 寒湿証：温経湯＋呉茱萸湯・少腹逐瘀湯*・脱花煎*        |               |
| 湿熱下注 | — 温清飲合桃核承気湯・竜胆瀉肝湯＋四逆散・清熱調血湯* |                                 |               |
| 虚証   | }                            | 気血不足：十全大補湯・聖癒湯*                 |               |
|      |                              | 肝腎両虚：六（八）味地黄丸＋当帰芍薬散・調肝湯*・益腎調経湯* |               |

## ①瘀血が中心の月経痛

## 症状

月経症状：共通症状に加え、脹満感より疼痛が強く、小腹部や少腹の固定痛がみられる。月経血はより血塊が多くなる。

全身症状と舌脈：紫舌・細絡・舌下静脈怒脹・皮膚の紫色変化・少腹急結などの全身の瘀血症状がみられる。洪脈。

## ②気滞が中心の月経痛

## 症状

月経症状：共通症状に加え、少腹部の脹満感がより強い疼痛で、精神的要因で悪化したり軽減する傾向がある。月経前や月経時に乳房の脹満感や月経前の焦燥感などがみられる。

全身と舌脈症状：平素から焦燥感や抑うつ感などの気滞症状がみられる。弦脈。

## (2) 寒証の月経痛

冷えが子宮にとりつき（寒凝胞中<sup>†</sup>）月経痛を引き起こすもの。その原